



### 【取組3】(テーマ) 残食を出さない指導

・「食べ始める前に、食缶の中を空にしておく」、「自分の食べられる量を考えさせ、増やしたり、減らしたりさせる」指導を徹底して行った。また、偏食傾向の児童については、担任・栄養教諭が個々の状況を把握し、児童と話しながら「この量ならがんばれる」という量を決めて食べさせることで、少ない量であっても、食べられたことに達成感が味わえるように指導した。

・給食時間に、毎日の食事に関わっている人について考えさせたり、給食の先生の仕事を紹介したりして、感謝の気持ちを育てる指導をした。

## 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

・ひろしま給食メニュー（熱く燃えろ！！Cスープ、広島レモン入り小松菜マドレーヌ）を取り入れた「夏休み子ども料理教室」を実施した。

・学校近くのスーパーに、チラシとレシピを置かせていただいた。



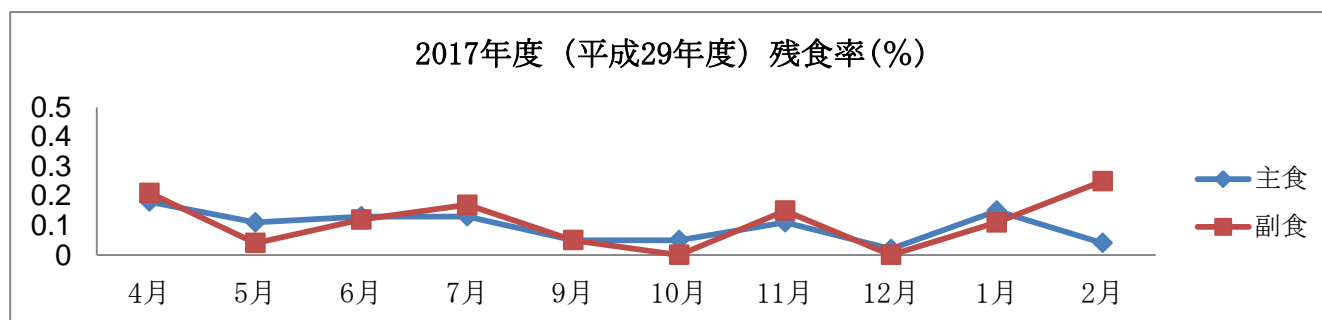
## 5 取組に対する成果と課題

### 【成果】

・家庭学習強化週間における調査で、低学年では、毎日朝食を食べている児童の割合が増加した。

		7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日
低学年 (%)	5/17~5/22	85.7	7.3	3.4	1.7	0	0.5	0	0
	10/17~10/23	91.8	5.8	2.3	0	0	0	0	0
	1/19~1/25	92.2	1.6	3.1	0.8	1.6	0.8	0	0

・残食率は、年間を通じて0.1~0.2%程度であった。2月の残食率が高くなったのは、インフルエンザの流行により、欠席者が多かったためと考えられる。



## 【課題】

- ・家庭学習強化週間における調査で、高学年では、毎日朝食を食べている児童の割合が減少した。

		7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日
高学年 (%)	5/17～5/22	96.7	0	1.6	0.8	0	0	0	0
	10/17～10/23	91.2	3.4	0.7	1.4	2.0	1.4	0	0
	1/19～1/25	89.0	7.5	0.7	1.4	0.7	0.7	0	0

## 6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・ミニ保健や通信を通して、継続的な指導を行う。
- ・早寝・早起き・朝ごはんの重要性について、通信や学級懇談会等で保護者啓発を行い、家庭での協力をお願いする。
- ・早寝・早起き・朝ごはんができていない児童については、個別に状況や背景（理由）をふまえた指導を担当・栄養教諭が連携して行う。
- ・小中一貫体力向上部会でも、早寝・早起き・朝ごはんの推進を校区全体で取り組み、指導を行っていく。
- ・引き続き残食を出さない指導を徹底し、より残食が少なくなるようにする。